

V209a 光赤外線大学間連携事業の活動報告

山中雅之 (京都大学), 高木聖子 (北海道大学), 高橋隼 (兵庫県立大学), Malte Schramm, 大朝由美子 (埼玉大学), 中岡竜也 (広島大学), 永山貴宏 (鹿児島大学), 野上大作 (京都大学), 村田勝寛 (東京工業大学), 楠根貴成 (名古屋大学), 諸隈智貴 (東京大学), 花山秀和, 堀内貴史, 関口和寛 (国立天文台), 他
光赤外線大学間連携事業メンバー

光赤外線大学間連携事業は中小口径クラスの望遠鏡を持つ 10 機関の大学と国立天文台から成る有機的連合体であり、現在第二期の 4 年目にある。マルチメッセンジャー天文学を推進し、重力波・ニュートリノの光学対応天体探索や追観測、超新星爆発などの突発現象や変動現象を含む時間領域天文学分野で成果を挙げつつある。今年度も突発・変動現象の連携観測を継続させ、11 月 29 日時点で 9 件もの観測を実行してきている。定例ワークショップは「連携観測の新機軸」というテーマで 11 月 10-12 日に 3 日間に亘って開催された。11 件の招待講演を含む 57 件の発表が行われた。今年度は連携観測による成果として 5 編の論文が受理されるなど、多くの成果が出版されている。ワークショップの発表数・連携観測による出版論文数はこれまでで最多であった。PASJ にて特集号を来年 2 月に出版予定である。教育事業としては、短期滞在実習・初心者向け IRAF 講習会を実施している。また将来的な教育に関連して、GROWTH astronomy school の教材を使って「Python もくもく会」という astropy の勉強会を 5 回実施している。その他に対外的な活動として、2020 年天文学会春季年会企画セッション「突発現象天文学と大学教育における大学望遠鏡のシナジー」を企画した。また、現在将来のサイエンス検討を進めており、講演では本事業で中小口径望遠鏡で推進する時間領域天文学について議論を行う予定である。